総合的な学習部報

そうがく

１２月号（No.３２）
19.12.19　発行
現職研修委員会
総合的な学習部編集

「総合学習に期待する」

総合的な学習部長　岩月　慎自

十月十九日（金）、岡崎市教育研究所において、第二回総合的な学習部主任会が開催された。はじめの小一時間は、部の運営、活動に関する事務的な内容であった。続いて「ゲストティーチャーの効果的活用」をテーマに、小学校と中学校の二グループに分かれて学習会が開催された。今年度から仲間に入れていただいた私には初めてのことだったが、実に素晴らしい学習会であった。

小学校グループの講師は、私たちの大先輩である平松正明先生と石川　貢先生のお二人で、これまで数多くの学校で総合的な学習の時間ばかりでなく、多くの場面でゲストティーチャーとして強力な支援をいただいている方々である。お二人は、ゲストティーチャーの活用についてのお話ばかりでなく、総合的な学習の時間が真に目指すもの、そのために教師が心すべきこと、さらには、いま教育に携わる大人は何を大切にすべきかなど、示唆に富むお話をしていただいた。準備のための世話係会では、時間をうまく使えるだろうか、広がりと深まりのある会になるだろうかと気を揉んでいたが、それらは杞憂であった。当日は、むしろ時間の足りないことを悔やむほどであった。

中学校グループでは、職業体験の進め方をテーマに、スポーツ用品店経営の近藤正明様から、熱い思いをたくさん聞かせていただいた。職業体験に訪れる中学生には、来店者を大切なお客様として接する心配りや、周囲から信用を得られる責任を果たす仕事ぶり、自ら仕事を求める気構えなどを具体的に指導していただいている。その基盤には、ご自身が抱いていた教師への夢があり、また子どもは周りの大人がみんなで育てなければならないという考え方を持っておられる。その上で、職業体験を進める中での学校や担当教師に欠けていることなど、厳しい指摘もいただいた。納得し、反省することの多い機会であった。

次期の学習指導要領の姿が次第に明らかになりつつある昨今、総合的な学習の時間の行く末が案じられる。しかし、岡崎では、今回の講師の皆さんのように、真剣に子どもの学びや成長を支援してくださるゲストティーチャーの協力が得られる環境にある。総合的な学習の時間の着実な実践により、体験に基づく本物の知の獲得、知の総合化の具現を期待するものである。

情報コーナー

去る十月二十日（土）に名古屋市の名古屋国際会議場で開かれた教育研究集会愛知県集会に、岡崎市の正会員として美川中学校の白川真里先生と福岡小学校の山本典弘先生が参加されました。積極的な議論の下で、岡崎の代表としてのお二人の着実な実践が高く評価されました。

「県教研に参加して」

美川中　白川　真里

十月二十日に行われた教育研究愛知県集会で、『健康的なこころ、からだ、考え方をもった生徒の育成を目指して～三年生で「生」と「性」を考える』と題し、リポートを発表しました。他地区の発表は体験活動やＧＴの活用など、興味深い実践ばかりでした。特に福祉や健康など現代社会の課題に取り組む実践が多かったです。

助言者の東海中学校、堺先生が「学校だけでは追究できないことがある。生徒だけではなく、先生も学ぶことができる。」とおっしゃっていました。手応

えを得るためには教材の工夫で大変な苦労があります。しかしその苦労や努力は生徒に伝わり、一生懸命に取り組むようになります。コミュニケーション能力の育成、学んだことをどう自分に返すかなど総合学習は奥の深い領域だと感じました。

中学校では行事に時間をとられがちですが、生徒の心が育つような実践に取り組んでいきたいです。

白川先生の積極的な発言

「県教研　総合学習部会に参加して」

福岡小　山本　典弘

三河・尾張・知多・名古屋の各地区から約四十名の正会員と約三十名のオブザーバーと共に県教研に参加することができ、総合学習について研鑽を積むことができました。

三河地区の実践は、三教研など聞く機会は多いが、県教研では名古屋・尾張地区の実践も聞くことができるので楽しみであった。三河同様、どの地区も充実した総合学習が行われていることが実践発表からうかがえ、愛知全体のレベルの高さを実感することができた。

リポートの発表は、内容ごとに大きく3つの枠にまとめられ、①地域社会とかかわりのある総合学習②自分自身とかかわりのある総合学習③今日的課題とかかわりのある総合学習、に関連した内容ごとにリポートの実践発表を行った。

わたしは、「出会い・ふれあいを通してふるさとの『心』をみつけ、地域に向けて自分の『心』を伝え広げる子ども」を研究主題に実践発表をした。

地域の人との交流から、地域の人の思いを知り、その思いを「こだわり」として追究していく。その「こだわり」を学習発表会では地域の人々に子ども自身の「心」として広めていく。また、自分の今後の生き方についても振り返りながら新たな目標を設定していくことを紹介した。持ち時間は4分間である。この時間内に実践を伝えきることは難しいが、質疑応答の時間に質問を二件いただいた。そのおかげで、さらに詳しく自分の実践について解説を加えることができた。

総括討論にも積極的に参加し、現在の総合学習の課題をもとに、新指導要領の「生きる力」の理念に基づく今後の方向性について、自分の考えを発表した。岡崎から選出された白川先生と山本で討論の半分以上の時間を要し、岡崎の教員として積極的に参加することができ、有意義な県教研であった。

山本先生のパソコンを用いた発表

● 市内の各校における総合的な学習の取り組み

以前各校より提出頂いた取り組み状況を分析したものです。アンケート結果から、市内の取り組み状況の傾向を見ることができました。

【小学校】

三年生においては、生活科の学区探検との関連から、学区の特徴（施設・名人・自然など）を生かした取り組みが多く見られた。また、自然に視点を定め、学区の自然を追究する中から学区の魅力を再発見する取り組みも多く見られた。

四年生においては、学区を流れる川に着目し、川の環境を追究することで、環境保全のための活動を具体的に行っていく取り組みが多数であった。

五年生においては、福祉をテーマにして、バリアフリーを追究したり、ボランティア活動の重要性を感じることができるような取り組みをしたりする事例が多く見られた。

六年生においては、五年生の活動の発展的内容を取り入れる学校が多くある一方で、世界に視点を広げ、国際理解を深める活動が多く報告されていた。

【中学校】

一年生においては、町をテーマに、岡崎ワンデーフリーや歴史探訪、地域の魅力再発見などの追究活動を行う学校が多い。

二年生においては、職場体験を中心に据える学校がほとんどで、自分の将来を見つめる活動に取り組んでいる。

三年生においては、進路に関する時間が多く必要な中で、修学旅行を総合に関連づけたり、命を見つめ直したりする学校が多く見られた。